

鉄道談議に花が咲く まちづくり座談会 (11月28日)

11月28日、市役所米原庁舎で「鉄道の薫り漂うまちづくり座談会」を開催しました。

この座談会は、鉄道のまちとしての今後のにぎわいづくりについて市民のみなさんからアイデアをいただくことを目的としたもので、この日は国鉄OBや鉄道ファンの方が集まり、9月にお色直しをしたラッセル車が現役で働いていた頃の思い出話や全国の鉄道イベントの傾向など、様々な鉄道談義が繰り上げられました。

さらに、「米原にゆかりのある車両の



構内走行など、観光とリンクした鉄道イベントを開催しては」といったにぎわいづくりの提案も寄せられ、「鉄道のまち米原」の可能性が語り合われました。

いじめ等対策推進本部を設置 初会議で対応マニュアル などを検討 (11月21日)

市では、いじめ等の未然防止や解消を目的として「米原市いじめ等対策推進本部」を設置し、11月21日に市役所山東庁舎で初会議を開催しました。

初会議にあたって泉市長は、「いじめ問題は喫緊の課題。教師や大人が気づいていないことも想定して対策をとらなければならない」とあいさつ。本部組織には、教育委員会をはじめ、彦根子ども家庭相談センターや米原警察署も加わって、市内のいじめ事案の状況や「いじめ対応マニュアル」の内容等について話し合いました。



そして、関係機関が連携していじめに対応していくことや地域ぐるみの取り組みを強化していくことについて確認しました。

四角い紙が クリスマスツリーに変身！ (12月1日)

12月1日、近江図書館で「ハサミと紙1枚で作るクリスマスツリーづくり教室」を開催しました。

このツリーは、ポスターなど正方形の紙を折り紙のように折ったあと、ツリーの幹を型取りながらハサミで切り落とし、枝の部分も切りこみをいれたり折ったりして作製するもの。参加された35人のみなさんは、親子で協力しながら楽しそうに作業を進めていました。

最後に折り目を開くとツリーのでっぺんにお星さまがびよこんと現れ、「きれいなお星さまが出てきたね」と、子



どもたちの目も喜びでキラキラ輝いているようでした。手作りのツリーで、今年のクリスマスはいつもより楽しく過ごせそうだね。

秋空のもと、米原市農林水産まつりを開催！

11月4日、春照の伊吹葉草の里文化センターで、米原市農林水産まつりを開催しました。これは収穫の恵みに感謝するとともに米原市の特産品を広く知ってもらおうと、毎年この時期に市の主催で開催しているもので、今年も新鮮な農産物を求める来場者でにぎわっていました。

また、今回から農業を活性化する取り組みの一環として「軽トラ市」を始めて開催。軽トラックの荷台に積まれた自慢の農作物を前に、生産者と消費者の交流も深まって大好評でした。

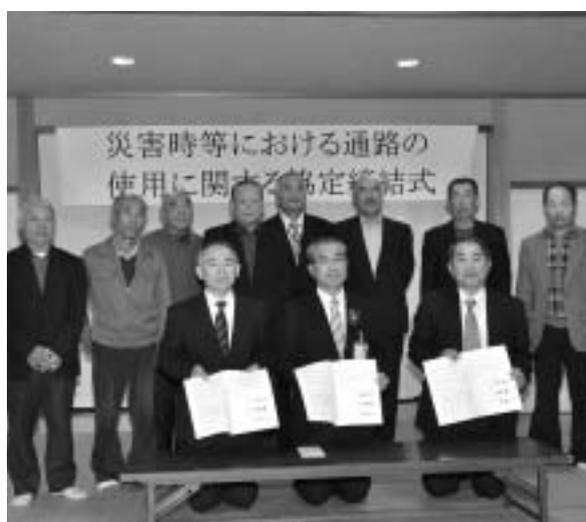
なお、前日の品評会に出品された作物は、まつりで競り売りにかけられ、売上金28,850円を東日本大震災義援金として寄付させていただきました。



災害時に集落の孤立化を防ぐため 通路の使用協定を締結 (11月28日)

11月28日、ふれあいの里リバーホール板並で、「災害時等における通路の使用に関する協定」を市と土地所有者である住友大阪セメント株式会社、土地の管理者である滋賀鉱産株式会社の3者で締結しました。

この協定は、災害などで県道山東本巢線が寸断された場合に集落が孤立するおそれがあることから、住民の避難や災害対応のための緊急通路として、伊吹鉱山敷地内の通路を使用できるようにしたもので、協定の締結には姉川上流8集落の区長さんに立ち合っていただきました。上板並の伊賀並正信区長は、「この実用的な迂回路に道筋をつけていただき、大変喜ばしく、感謝しています」と述べられていました。



まいばら
まんすりー
れぼー



伊吹山では昨年より8日も早く初冠雪を迎え、今年も大雪が心配される場所です。ここ3年は例年に比べ雪が多く、市民の皆さんも除雪や屋根の雪下ろしなどに大変なご苦労があったかと思えます。

一方で、雪はウィンタースポーツなどにとっては恵みであり、また、雪解けとともに地下水となって地中に蓄えられ自然のサイクルで年間を通じて湧き出す湧水の源でもあります。市内には、実に200か所を超える湧水の源でもありますが、本市の貴重な資源である湧水に対して重要な役割を担う雪は、同時に「水源の里まいばら」にとって、なくてはならない貴重な資源であると言えます。

米原市には、山岳気象観測史上、世界一の積雪11m82cmを記録した伊吹山をはじめ、積雪が2mを超す地域からほとんどない地域もありますが、雪が果たす役割や付き合い方などを改めて考え直すことも必要ではないでしょうか。

伊吹北部で地域の活性化に活躍するみらいつくり隊では、やっかいものときされる雪を踊って吹き飛ばそうと「雪ふみ行進」を考案してくれました。市役所もしっかりと除雪体制を整え万全を期していますが、こうした逆転の発想で雪を楽しむ工夫をしながら冬の訪れを待つのもいかがでしょうか。

米原市長 泉峰一

(12月1日記)